

今週の為替相場見通し(2021年12月27日)

総括表		先週の値動き			今週の予想レンジ
		注	レンジ	終値	
米ドル	(円)		113.33 ~ 114.51	114.30	113.50 ~ 115.00
ユーロ	(ドル)		1.1235 ~ 1.1343	1.1320	1.1260 ~ 1.1380
(1ユーロ=)	(円)		127.53 ~ 129.75	129.74	128.00 ~ 130.50
英ポンド	(ドル)		1.3175 ~ 1.3437	1.3375	1.3270 ~ 1.3450
(1英ポンド=)	(円)	*	149.53 ~ 153.71	153.14	152.30 ~ 154.65
豪ドル	(ドル)		0.7083 ~ 0.7251	0.7224	0.7100 ~ 0.7350
(1豪ドル=)	(円)	*	80.28 ~ 82.99	82.61	80.00 ~ 82.40

(データ)先週の値動きに関して、注の欄で無印の項目はみずほ銀行、*印の項目はブルームバーグ。

1. 米ドル

市場営業部 為替営業第二チーム 大谷 未央

(1) 今週の予想レンジ: 113.50 ~ 115.00 円

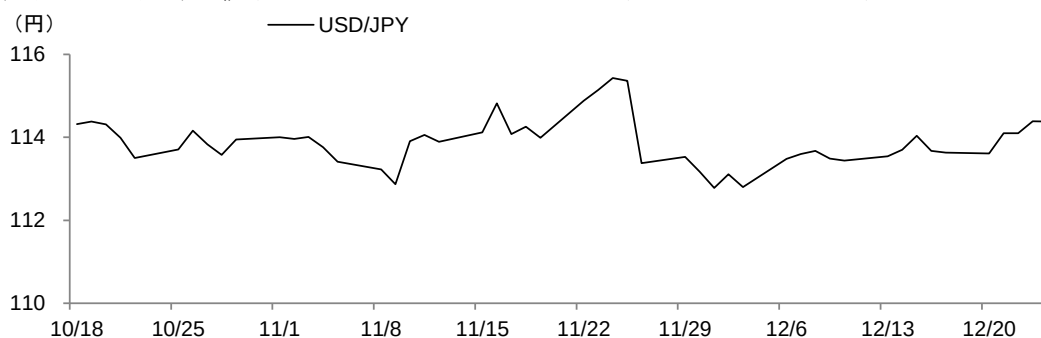
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

今週のドル/円相場は週後半にかけて上昇した。週初20日、113.55円付近でオープンしたドル/円は主要な経済指標の発表もなく、新規材料難の中、欧州時間に一時週安値の113.33円まで下落も、米国時間にかけては113円台後半まで反発。米株や米金利の動向を眺めながら113円台半ばを動意乏しく推移した。21日、ドル/円は株式市場の堅調推移を受けて113円台後半で底堅く推移した後、海外時間に入り米長期金利上昇に伴うドル買いから114円台前半まで急伸。その後小幅に反落するも下値は堅く、114円台を維持。22日、ドル/円は株式市場の堅調推移を横目に114円台前半で小動き。海外時間での米7~9月期GDPの上方修正や米12月消費者信頼感指数の良好な結果に続伸したが、その後は米金利低下を受け上値重く推移した。23日、ドル/円はクリスマス休暇を目前に控え小商いの中、株式市場や米長期金利の堅調推移を受けじり高の展開。海外時間でも米11月PCEデフレーターや米12月ミシガン大学消費者信頼感マインド指数の良好な結果に114.40円台まで上昇した。24日は前日の流れを引き継ぎ東京時間に週高値である114.51円まで上昇。その後海外時間に入り、米国では債券・株式市場が休場となる中、動意薄の展開となり、114.30円で越週した。

今週のドル/円相場は底堅い推移を予想する。今週については、年末を控える中重要な経済指標発表等の予定がされておらず、動意が薄い展開となろう。基本的には大きな値動きがない中で、先週末のリスクオフの流れを継続しドル/円は底堅い推移になると予想する。また、年末のレパトリエーション観測もドル/円を下支えしよう。今年の年末年始については、日本の休場が31日(金)、1月3日(月)に限られていることや、オミクロン株の感染拡大懸念を受けて投機筋における円の売り持ちポジションは足元縮小していることもあり、日本が休場時の円高リスクも限定的であると考え。経済指標の発表は、27日(月)に米12月ダラス連銀製造業活動指数、28日(火)に米12月リッチモンド連銀製造業指数の発表を予定している。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(12/20 ~ 12/24)の値動き: 安値 113.33 円 高値 114.51 円 終値 114.30 円



2. ユーロ

市場営業部 為替営業第二チーム 玉井 美季子

(1) 今週の予想レンジ: 1.1260 ~ 1.1380 128.00 ~ 130.50 円

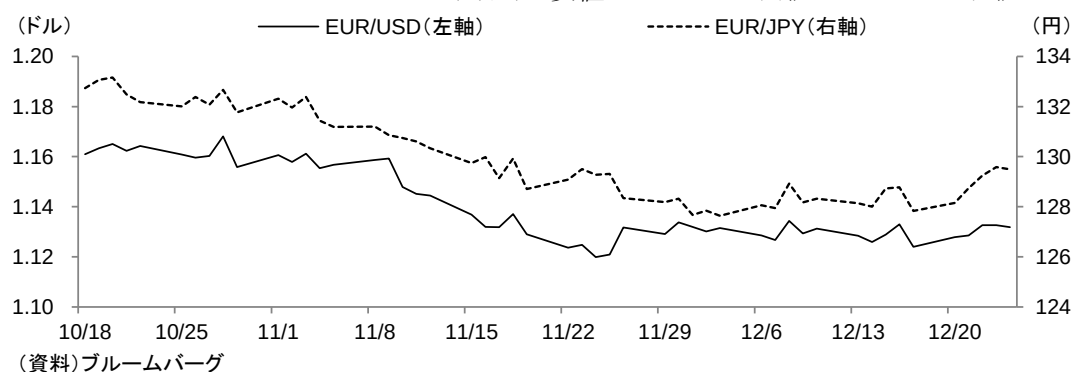
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週のユーロ/ドル相場は後半にかけて上昇した。週初20日、1.1305付近でオープンしたユーロ/ドルは先週末の急落の反動でポジション調整の動きから一旦は上昇する局面も見られたが、その後は米金利上昇に伴うドル買いから1.12台後半まで再び値を落とした。21日、一時前日の高値付近まで回復も、米金利上昇を背景にドル買いが強まり1.12半ばまで下落。その後は特段材料のない中で、株式市場の動向を見ながら1.12台後半での揉み合いとなった。22日、欧州時間に1.12台半ばまで下落するも、欧州株の堅調推移を受けて1.1342まで急上昇し、その後も堅調に推移した。23日、米長期金利上昇や米経済指標の良好な結果を背景にドル買い優勢となり1.12台後半まで下落。その後はクリスマス休暇を控えたポジション調整や株式市場の堅調推移に1.13台を回復し、前日の高値付近まで値を戻した。24日はクリスマス休暇で欧米の多くが休場となる中、方向感に乏しい動きとなり週高値の1.1343を付け、1.1320で越週した。

今週のユーロは底堅い動きを予想する。欧州でのオミクロン株感染拡大は懸念されるものの、徐々に調査結果が明らかになる中、重症化リスクが低いことやワクチンがある程度効果があると示され懸念は後退しつつある。予断は許さないものの、安心感が続けばユーロ買いにつながろう。金融政策については先週ECB関係者から過度なインフレを背景にタカ派的な発言が続いたことも注目だ。米国ほどではないものの徐々にECBも緩和の出口に向かっていっていると受け止められる場面もありそうだ。ただ、27日(月)・28日(火)と英国を中心に祝日となる国が多く、年末ムードで参加者も少ないことから積極的な取引は控えられそうだ。

(3) 先週までの相場の推移

先週(12/20 ~ 12/24)の値動き: (対ドル) 安値 1.1235 高値 1.1343 終値 1.1320
(対円) 安値 127.53 高値 129.75 終値 129.74



3. 英ポンド

欧州資金部 本多 秀俊

(1) 今週の予想レンジ: 1.3270 ~ 1.3450 152.30 ~ 154.65 円

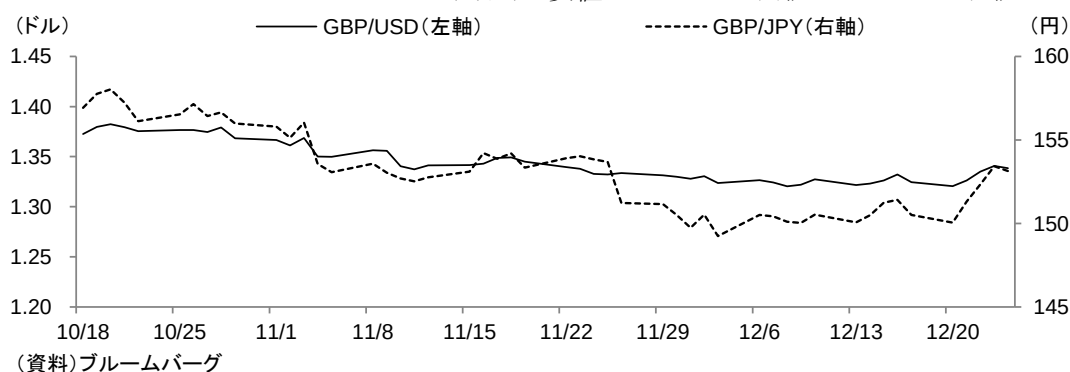
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の英ポンド相場は、想定外の堅調。対ドルだけでなく、対円、対ユーロなどでも全面高に振れた。ポンドの押し上げ要因は、英中銀による追加利上げ期待に集約できただろう。16日の英中銀金融政策委員会(予想外の利上げを決定)に前後して乱高下した英短期金利先物(3か月物SONIA先物)は、20日以降、明確に水準を切り下げ(金利は上昇)続けた(来年末までの利上げ織り込みは+17bp幅ほど進んだ)。ただ、利上げ織り込みを進めるような材料は特段見当たらなかった。22日に発表された英7~9月期GDP確報値は、暫定値の前年比+6.6%から同+6.8%に上方修正されたが、これは4~6月期の数字が確報値の同+23.6%から同+24.2%に上方修正されたことを受けた「過去」の上振れ。前期比(7~9月期)の数字は、暫定値の+1.3%から、逆に+1.1%に下方修正されていた。同日、ポンドは対ドル、対円で明確に水準を切り上げたものの、対ユーロではほぼ横ばいで、この日のポンド上昇が、ユーロに対する連れ高だった可能性を示唆した。ユーロは、この日、欧州中銀首脳(ホルツマン理事、フィンランド中銀レーン総裁、シュナーベル理事)が、相次いで来年中の利上げ可能性を除外しないかの発言をした。この間、来年中の利上げ可能性を言下に否定してきたラガルド総裁ですら、この日は、「(利上げ/利下げ)いずれの方向にも行動の用意がある」と微妙な発言をした。ジョンソン首相が、20日、クリスマス前のロックダウン導入の可能性を否定したことも(後述)、敢えて、英景気堅調期待からポンド押し上げ要因になったと読むことができたかもしれない。

今週の英ポンド相場は、軟調気味の膠着を予想。まず、英市場は、クリスマス・ディ、ボクシング・ディの振替休日で、今週は3営業日(29~31日)しかない上、翌週末も連休(ニューイヤー・ディの振り替え休日)で、市場参加者の減少と動意の低下は避けられない。その上で、軟調を中心に見込む理由は、イングランドが飲食店やナイトクラブなどに対し、営業制限/停止を導入する(英連邦の他の3か国では既に導入済み)可能性が高いことがひとつ。上述の通り、ジョンソン首相は、クリスマス前のロックダウン導入を否定したが、そのことは逆に、クリスマス明け以降のロックダウンを示唆しているとも言え、早ければ26日(日)以降にも、なんらかの発表があることが予想されている。19日(日)に英紙が、昨年5月のロックダウン(屋外での3人以上の集会禁止)の最中に、首相官邸の庭園で20人近い職員が、ワインとチーズを片手に「ビジネスミーティング」をしていた画像を掲載したことで、ジョンソン首相に対する世間の風当たりは一段と強まっており、2年連続でクリスマス「取り上げる」ような発表はとてできない状況にある。上述画像には、ジョンソン首相自身に加え、キャリー婦人と生後2週間の同夫妻の子息も同席していた様子が写っていた。イングランドがクリスマスを強行することの是非は置いておいて、ポンド軟調を予想するもうひとつの理由が労働者不足。足元、オミクロン株は猛威を奮っており、23日(木)の感染者数はイングランドだけで10万人を超えていた。その事實は、少なくとも50万人前後の人々が現時点で自主隔離中であることを意味する。濃厚接触者とされた人々まで含めると、休職を余儀なくされた労働者の数は数十万人では済まないものと思われる。オミクロン株による重症化/入院/死亡のリスクは、デルタ株との比較で格段に低いというのは朗報だが、一方で、とりわけ、自己隔離による医療関係者の不足は大きな懸念材料。ジョンソン首相の決断に対する評価は、今しばらく時間を掛けて見極めることになろうが、医療体制が崩壊しかねない現状は、英政治・経済にとって大きな懸念材料と言えるだろう。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(12/20 ~ 12/24)の値動き: (対ドル) 安値 1.3175 高値 1.3437 終値 1.3375
(対円) 安値 149.53 高値 153.71 終値 153.14



4. 豪ドル

アジア・オセアニア資金部 シドニー室 安藤 愛

(1) 今週の予想レンジ: 0.7100 ~ 0.7350 80.00 ~ 82.40 円

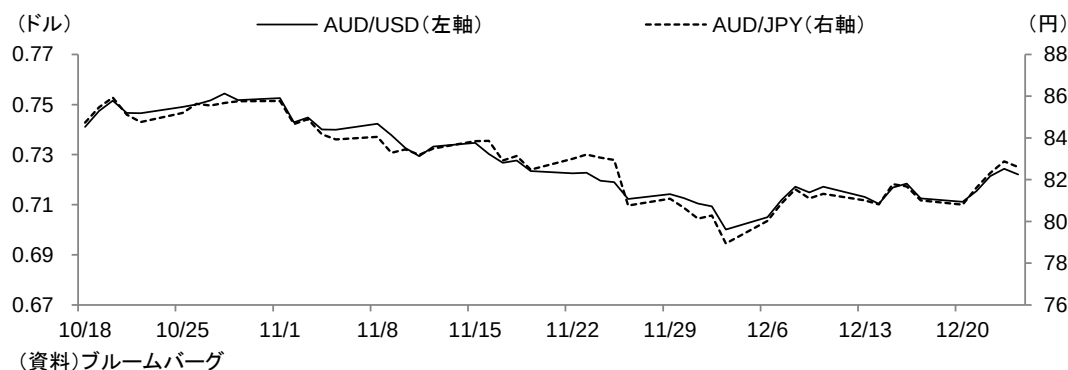
(2) ポイント【先週の回顧と今週の見通し】

先週の豪ドル相場は一旦0.70後半まで下落後、0.72台半ばまで回復。20日、オミクロン株の感染拡大を受けて、欧州の一部の国で行動制限が強化される動きが出てきたことや、バイデン米大統領が成立を目指す税制・支出法案に民主党のマンチキン議員が明確な反対を表明したことが投資家心理を冷やし株価が下落。豪ドルは一時、2週間ぶり安値0.7083まで下落した。21日、バイデン米大統領が演説で急速に拡大するオミクロン株への対応として、検査施設やワクチン接種会場の増設などを発表するとともに、2020年のようなロックダウンは行わないことを強調。更に米国で新たなコロナ経口薬が翌週にも承認される可能性とのヘッドラインもあり、リスクムードが回復。株価の上昇とともに豪ドルは0.7150近辺まで上昇した。バイデン米大統領が、財政・支出法案をめぐる民主党のマンチン上院議員と合意の可能性があるとの見解を示したことも、リスク選好の流れを支えた。22日、米Q3GDP(確報値)が上方改定されたことに加え、米12月コンファレンスボード消費者信頼感指数が市場予想を大幅に上回ると株価が上昇幅を拡大。リスク選好の流れから米ドルが下落する中、豪ドルは上値を迫る展開となり0.72台前半まで上昇。23日、投資家心理の回復とともに、S&Pが最高値を更新する中、豪ドルはじりじりと上昇して0.7240近辺まで上昇。24日、材料難な中、クリスマス休暇を控えて薄商い。狭いレンジ取引に終始して、0.7220近辺で越週。

今週の豪ドルは堅調な推移を予想。オミクロン株への警戒感の高まりがFOMCのタカ派転向と重なり、投資家心理を冷やしていたが、先週はオミクロン株を巡り、重症度やワクチンの有効性に関して楽観的な報道が相次ぎ、リスクセンチメントが回復してきている。米株価が再び上昇トレンドに回帰する中、今週の豪ドルは底堅い値動きを予想する。クリスマス／年末・年始休暇シーズンで、市場流動性は極端に落ちている為、ヘッドラインニュースを受けた急激な値動きには注意を払いたい。特に、オミクロン株の重症度に関しては楽観的な報道が多いものの、感染者数は急速に拡大しており、ネガティブなヘッドラインには要注意。

(3) 先週末までの相場の推移

先週(12/20 ~ 12/24)の値動き: (対ドル) 安値 0.7083 高値 0.7251 終値 0.7224
(対円) 安値 80.28 高値 82.99 終値 82.61



当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。